

惜別の辞

経済学会会長・経済学部長 石 田 晃

平成13年3月、長戸路政行教授と北島克一教授が定年を迎えられ本学を退職されました。本学経済学会は両教授の長年にわたる教育および研究上の功績を顕彰するために「敬愛大学・研究論集」第61号を退職記念号として刊行することにいたしました。また、両教授の功績に対しまして深く感謝すると共に、ここに惜別の辞を述べます。

年譜をみますと、長戸路教授は、東京大学法学部私法科と同学部政治学科を卒業されると共に、この間司法試験にも合格されている。その後司法修習生を終了されて、東京弁護士会所属の弁護士に登録され、現在に至るまで弁護士活動を行って居られます。一方、教職には、昭和42年に千葉敬愛短期大学助教授、昭和45年本学専任講師、平成6年本学教授、平成9年8月敬愛大学学長、平成12年8月学長を退任された。また、学校法人千葉敬愛学園の経営にもこの間携わってこられ、昭和55年千葉敬愛学園評議員、63年同学園理事、平成6年同学園理事長に就任し現在に至っている。従って、長戸路教授におかれては、大学教授の職は定年により退かれたけれども、大学の経営においては現在も心血を注がれて当たっておられる。今日の少子化による大学経営危機の時代に、敬愛大学とその系列高校の存続と発展を如何に図っていくか日夜苦心されておられることに改めて敬意と感謝を申しあげたいと思

います。また、大学では労働法の講義を担当され、実務を例に挙げながらの講義は学生に大変好評でありました。平成12年11月に心臓の手術をされ、ペースメーカーを入れての学校経営ですので、どうかご自愛頂きたいと思います。

北島教授におかれましては、東京外国語大学を卒業された後、海上保険会社への勤務を経て、昭和39年国際短期大学で英語担当の教職に就かれた後、昭和55年本学に着任された。以来21年に亘って本学の英語教育に当たってこられ、この間北島先生には経済文化研究所所長の重責を果たされ、強い責任感を持って研究所の運営に当たられ山積した問題の処理をされたことは記憶に新しい。また、北島先生は英語学を専門としておられたが、英文法、時事英語に大変造詣が深く、「誤りやすい英語100題」のような著書を執筆されている。

両先生のこのような業績によって、両先生には名誉教授の称号が贈られました。本学における両先生の長年にわたる研究業績および職歴などの詳細については、本論集に掲載されております一覧表に譲ることといたします。

長戸路先生には今後も引き続き本学園理事長として大学運営に当たられますので、我々後進として真に心強いものがあります。北島先生は講師として引き続き本学で直接学生の指導に当たられます。両先生共完全なる定年は暫く「お預け」となるようですが、本学の発展のために厳しいご指導を心からお願いいたします次第です。